

平成29年度 楠見東小学校 全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

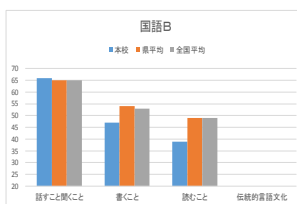
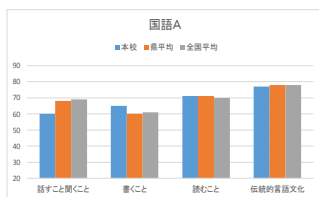
☆調査内容

(1) 実施日 平成29年4月18日(火) (2) 対象 第6学年 44名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。国語A・算数Aでは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、日常的に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、国語B・算数Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面で活用できる力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されています。※理科については、隔年実施のため、本年度は実施していません。

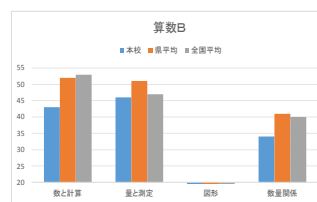
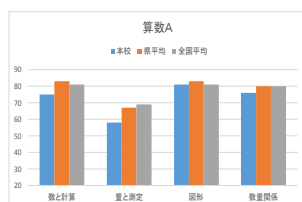
◎教科調査結果の分析より

《国語科の傾向》



- 国語Aでは、本校の平均正答率は74ポイントで、和歌山市の平均正答率75ポイントとの差が、マイナス1ポイント。国語Bの平均正答率は54ポイントで、和歌山市の58ポイントとの差がマイナス4ポイントで、全国平均、県平均、市平均ともほぼ同じことから、国語Aについては、平均と同レベルでありました。
- 漢字の読み・書きについてはたいへんよくできていました。
- 自分の考えを発表したり、他の人の発表を聞いたり、話し合いについての設問に課題が見受けられました。〔課題Ⅰ〕
- 国語Bでは話すこと、聞くことに関する設問はよくできていました。
- 国語B問題での、読み取りや自分の考えを書くことに関する設問に課題が見受けられました。〔課題Ⅱ〕
- 国語B問題での差は具体的には、平均正解数において、0.5問分の差となります。正解数から考えると、あともう少しの頑張りで、全国平均、県平均、市平均にはなるということです。日頃からの着実な積み重ねが大事であるというと思われます。

《算数科の傾向》



- 算数Aでは、本校の平均正答率は73ポイントで、和歌山市の平均正答率78ポイントとの差が、マイナス5ポイント。算数Bの平均正答率は39ポイントで、和歌山市の47ポイントとの差がマイナス8ポイントです。算数について十分に力が付いていない項目があることが分かります。
- 少数の計算、四則混合の計算、分数の計算に誤答が多く、3・4年生で学習する数・量に関する計算に課題が認められました。〔課題Ⅲ〕
- 数学的な考え方を問う問題に課題が見受けられました。〔課題Ⅳ〕
- 算数における平均との差は、具体的には、平均正解数において、算数Aで約0.8問、算数Bで約0.9問の差です。正答数においては1問未満の差で、日頃からの着実な積み重ねが大切です。

全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や学校での指導の様子がわかります。

◎質問紙調査結果より

- 児童の自尊感情が低い結果となりました。様々な場面で、「やればできる気持ち」、「ほめてのばす」ことが大切です。
- テレビの視聴やゲーム等へ3時間以上費やす割合が平均に比べ多く、その結果、学校の宿題以外の家庭学習の習慣が十分でないという結果でした。〔課題Ⅴ〕

調査結果を受けて本校が、具体的に取り組んでいること

- グループ学習や自ら主体的に関わり学べる授業、学び合える授業に積極的に取り組みます。〔課題Ⅰ〕〔課題Ⅱ〕解決のために。
- 東タイム（月・火・木・金曜13:30～13:45）に算数ドリルやプリントで繰り返し学習を実施します。〔課題Ⅲ〕、〔課題Ⅳ〕解決のために。
- チャレンジタイム（月、水曜、下校時30分間）を設け、希望者に基礎学力の向上と学習内容の定着のための指導をします。〔課題Ⅰ〕、〔課題Ⅱ〕、〔課題Ⅲ〕、〔課題Ⅳ〕解決のために。
- 「家庭学習のすすめ」の推進。子育て講演会の開催により家庭での過ごし方等についての啓発を図ります。〔課題Ⅴ〕解決のために。